

### 平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小谷流村おこし塾事業
事業主体 (連絡先)	小谷村 (観光振興課特産推進室 0261-82-2589)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業 (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	415,000円 (うち支援金: 311,000円)

#### 事業内容

講演・交流会・現地視察などによる感化・新しい知識から、村民・関係者の地域おこしの機運が更に高まり、新しいアイデア・やる気生まれることを期待するとともに、これらを実践するため、塾生をはじめ、村内外住民・関係者が相互に協同・応援するネットワークづくりを目指すとともに、今後の村づくり・地域おこしを担う意欲のある人材の育成をすすめるため、「小谷流村おこし塾」を全9回(講)開催。



【第9講(最終講)記念写真】

自己評価(事業実施率) 【 A 】

#### 事業効果

・全9回(講)開催し、延べ173名が受講(「塾生81名」「一般10名」「東京農業大学4名」「関係者(集落支援員・地域おこし協力隊員・役場外)78名」)。全9講の内、6講以上の受講塾生6名(皆勤賞2名)。  
 ・塾生もメンバーの小谷の若者による「小谷村青年会・O.T.A.R.I-n.k」が設立され、若者による新たな取組が動き始めている。  
 ・回(講)を重ねるにつれ、塾生に見られた変化  
 【「どうせできないだろう」という考え方だった。→「できるかもしれない?」になり、さらに「やってみよう」という考え方に変わった。】【「自身の地域で」とか「組織で」とか、単体で物事を考えていた。→「つながってなにかができるか」という発想に変わった。】【小谷村にある地域資源、潜在資源を「あたりまえ」と捉えていた。→資源の価値をあらためて見直し、自身の村の魅力を再発見した。】【「年配の人がすべてを決める」という発想に捉われがちだった。→若い世代との交流を深めることによって「若い世代の発想も取り入れて」「チームで」など、「共に取り組む」という発想に変わった。】【村内で頑張っている人たちの取組や思いを知ることによって、自身が頑張るエネルギーをもらい、やる気に火が付いた。】【塾生同士が知り合い、つながりを深めることができた結果、「今後もつながりを継続し、応援し合える関係を目指すようになった。】  
 小谷流村おこし塾の開催により、塾生の地域おこしの機運が高まり、今後の村づくり・地域おこしへ向けて意欲のある人材が育成された。

#### 【目標・ねらい】

- 村民・関係者による地域おこしの機運を高める。
- 新しいアイデア・やる気を生み、実践(行動)する。
- 塾生をはじめ、村内外住民・関係者が相互に協同・応援するネットワークをつくる。
- 今後の村づくり・地域おこしを担う意欲のある人材を育成する。

自己評価(事業効果) 【 A 】

#### 今後の取り組み

・第9講(最終講)で、「塾で学んだこと、得たこと」と「それを踏まえ、自分はどうなアクションを起こすか」について塾生に発表してもらった。学びを学びで終わらせず、自身の夢、これまでやってきたこと、これからやっていくと決めたこと(行動)などについて村として必要な応援をしたい(村内外の人材とつながる機会を持つなど)。併せて新たなかたちで塾を開講したい。